

# 宮崎県の環境の現況と対策

## 第4部 快適環境の現況と対策

第1章 自然景観	136
第2章 都市公園等	137
第3章 文化財	140

# 第4部 快適環境の現況と対策

## 第1章 自然景観

### 第1節 自然景観資源

本県には、日南海岸や日豊海岸に代表される海岸景観、九州山地に係わる山地景観など、多様なすぐれた景観が多数分布しています。

本県の自然景観資源は40種354か所にのぼり、全国15,468か所の2.3%を占めています。内容をみると、陸景として、火山景観が7種43か所、山地（非火山性）景観が5種31か所、石灰岩景観が1種7か所などがあり、また、水景としては、海岸景観が14種132か所、河川景観が7種127か所、湖沼景観が2種9か所などがあります。

### 第2節 巨樹・巨木林

巨樹・巨木林は地域のシンボルとして、また良好な景観の形成のために重要な役割を果たしています。

本県は温暖多雨な気候、九州山地に連なる地形などの関係から巨樹・巨木林の本数は3,856本にのぼります。樹種は72種に及びますが、スギ（2,109本）、クスノキ（479本）、イチイガシ（129本）、タブノキ（150本）、イチヨウ（73本）などが多くなっています。

市町村別では、日南市が1,358本と最も多く、次いで宮崎市312本、延岡市245本、高原町213本となっています。

### 第3節 名水

#### 1 昭和の名水百選

環境省が、昭和60年度に「名水百選」を発表しました。本県からは、「出<sup>いで</sup>の山湧水<sup>やま</sup>」と「綾川湧水群<sup>あやがわ</sup>」の2つが選ばれています。

#### 2 平成の名水百選

環境省が、水環境保全の一層の推進を図ることを目的に選定したもので、地域の生活に溶け込んでいる清澄な水や水環境のなかで、特に、地域住民等による主体的かつ持続的な水環境の保全活動が行われているものを、「昭和の名水百選」に加え、新たな名水、「平成の名水百選」として選定したものです。本県からは、「妙見神水<sup>みょうけんしんすい</sup>」が選ばれています。

#### 3 宮崎の名水

県では、平成4年度に、本県の豊かな自然に育まれた河川や湧水などの水環境の中から、特に良好なものを県民に広く紹介することにより、その保全と水質保全意識の向上を図るため、「宮崎の名水」として21件を選定し、紹介のためのガイドブック「ひむか水紀行」を発行しました。

### 第4節 音風景

平成8年度に環境庁が行った、残したい“日本の音風景100選”事業は、環境計画の趣旨を踏まえ、本県からは「えびの高原<sup>こうげん</sup>の野生鹿<sup>やせいじか</sup>」と「三之宮峡<sup>さんのみやきょう</sup>の櫓<sup>やぐら</sup>の轟<sup>とどろ</sup>」の2つの音風景が選ばれています。

### 第5節 かおり風景

平成13年度に環境省は、豊かなかおりとその源となる自然や文化・生活を一体として将来に残し、伝えていくため“かおり風景”として100地点を選定しました。

本県からは「五ヶ瀬川の鮎焼き」が選ばれています。

## 第2章 都市公園等

### 第1節 都市公園等の整備

本県における都市公園等の整備状況は、952か所2,000.79haであり、都市計画区域内の人口一人当たり都市公園等面積は約21.2㎡です。これは、全国一人当たりの都市公園等面積約9.9㎡（平成23年度末）を大幅に上回っていますが、今後も引き続き、都市環境の改善や災害時の避難地の確保を図り、さらに増大する多様なレクリエーション需要に対応するため、都市公園の均衡ある整備を図っていきます。

### 第2節 沿道修景等の推進

#### 1 沿道修景

本県では、みどりあふれる住みよい郷土を築くために、「宮崎県沿道修景美化条例」や「宮崎県における自然環境の保護と創出に関する条例」を制定するなどにより、郷土美化を推進しています。

「宮崎県沿道修景美化条例」は、県内の沿道においてすぐれた自然景観及び樹木その他の植物を保護するとともに、花木類の植栽等を行うことによって沿道の修景を図り、もって郷土の美化を推進することを目的としています。

沿道自然景観地区等指定の現況 (平成25年3月末現在)

名 称	指定地区等	備 考
沿道自然景観地区	18 地 区	面積 1,026.09 ha
沿道修景植栽地区	72 地 区	延長 164 km
沿道修景指定樹木	27 か 所	本数 39 本

#### 2 景観

これまで本県では、全国に先駆けて豊かな自然を生かした美しい県土づくりに取り組み、その保全・創出の成果を観光分野で生かしてきましたが、本県の魅力をより高めるためには、これまでの自然景観に加え、都市景観や農山漁村景観、文化的景観等の保全・創出にも取り組んでいく必要があります。

そのため、本県では景観法の制定を受け、平成19年4月に景観形成に関する基本的な考え方や方向性を明らかにした「宮崎県景観形成基本方針」を策定するとともに、平成22年3月には「宮崎県公共事業景観形成指針」を策定し、地域固有の景観を生かした魅力的で活力のある宮崎県の創造に取り組んでいます。

景観重要建造物 (平成25年3月末現在)

景観行政団体名	指定年月日	建造物の名称
宮 崎 市	平成20年12月1日	宮崎県庁本館
宮 崎 市	平成20年12月1日	宮崎県庁5号館
宮 崎 市	平成20年12月1日	商家「旧阪本家」
宮 崎 市	平成21年10月1日	河上家武家門
宮 崎 市	平成21年10月1日	安藤家武家門

景観重要樹木 (平成25年3月末現在)

景観行政団体名	指定年月日	樹木の名称
宮 崎 市	平成21年10月1日	フェニックス(県庁内)
宮 崎 市	平成21年10月1日	フェニックス(県庁内)

景観行政団体：景観法に基づいて良好な景観形成のための具体的な施策を実施していく地方公共団体のことです。



景観重要建造物【河上家武家門】



景観重要建造物【安藤家武家門】

### 3 屋外広告物

屋外広告物について、風致を維持し、公衆に対する危害を防止するとともに、屋外広告物と地域環境との調和を図り、地域の良好な景観形成に資するため、屋外広告物条例による規制、指導を行っています。

## 第3節 緑地環境の整備

### 1 工場の緑化

#### (1) 現況

工場緑化については、従来、立地企業が市町村と立地協定を締結する際、協定書の中に「工場の環境を整備するため、緑化については積極的に配慮する」旨を明記するように指導するなど、工場緑化を奨励しており、毎年緑化優良工場の大賞等の推薦を行っています。

また、立地企業に限らず、工場を新設若しくは増設する場合において、一定規模以上の工場は、工場立地法に基づき敷地面積に対する緑地面積の割合を20%以上とすることが義務づけられており、法の周知及び遵守について普及啓発を行うなど積極的な緑地の確保について指導しています。

注 工場立地法に基づく届出義務のある一定規模以上の工場とは、敷地面積9,000㎡以上又は建築面積3,000㎡以上の工場又は事業場です。

注 国の定める「工場立地に関する準則」による割合であり、日向市の工業専用地域においては、条例により5%以上の割合が定められています。

#### (2) 今後の課題

樹木等の緑は、人間性の向上と健康の増進に役立つとともに、大気の浄化、温湿度の調整、騒音の防止等の効果もあるところから、工場建設に際しては、生産施設と同様に、緑地についても並行して計画を進めていくことが必要です。

### 2 公共施設の緑化

#### (1) 学校

県立学校緑化事業の実施にあたっては、学校環境緑化教育推進モデル校を指定し、生徒の「自然環境を大切にし、緑を育む心」を醸成するとともに、学校の修景に配慮した緑化を心がけています。

平成24年度の県立学校緑化事業は、下記の2校で実施しました。

#### 県立学校緑化事業

学 校 名	緑地（整備）面積	事 業 費
延岡星雲高等学校	91.5㎡	967千円
みやざき中央支援学校	11.6㎡	805千円
計	103.1㎡	1,772千円

(2) 港 湾

港湾緑地の整備は、港湾環境の快適性を高めるとともに、周辺地域の自然環境の保全、生活環境の改善を図り、地域社会と一体となった港湾空間をつくりだすことを目的としています。

本県においては、円滑な港湾活動と地域社会との結びつきの強化を図るため、次のとおり緑地の整備を進めています。

港湾緑地の整備状況

(平成25年3月末現在)

港 名	全体計画面積 ( m <sup>2</sup> )	整備済面積 ( m <sup>2</sup> )
細 島 港	80,000	35,500
宮 崎 港	397,000	262,600
油 津 港	93,000	30,200
古 江 港	4,400	4,400
延 岡 新 港	15,300	15,300
外 浦 港	5,300	5,300
福 島 港	15,100	15,100

油津港堀川地区の港湾環境整備事業



# 第3章 文化財

## 第1節 文化財の概況

本県は「ひむかの国」として古くから歴史に登場し、歴史的にも文化的にも多数の優れた遺産が残されています。これらの遺産は、県の歴史と文化を語るうえで欠くことができないものであり、また、環境保全の観点からも、歴史的・文化的雰囲気など、快適な環境へのニーズの高まりに応えるために重要なものとなっており、永く県民の財産として保護、保存に努めなければなりません。

指定された文化財は、法律や条例により、その現状を変更したり、その保存に影響を及ぼす行為が規制されています。道路建設や宅地造成などの多種多様な開発事業の進む中でも、文化財は大切に守られています。

なお、平成25年3月末現在の文化財の指定状況は、次のとおりです。

### 文化財等の指定状況 (平成25年3月末現在)

#### [国指定文化財]

	件数
重要文化財	17
重要有形民俗文化財	3
重要無形民俗文化財	6
特別史跡	1
特別天然記念物	4
史跡	22
名勝及び天然記念物	1
名勝	3
天然記念物	43
計	100
重要伝統的建造物群保存地区(選定)	3
国登録文化財	71
国登録記念物	1

#### [県指定文化財]

	件数
有形文化財	56
無形文化財	1
無形民俗文化財	25
史跡	96
名勝	7
天然記念物	20
計	205

#### [市町村指定文化財]

	件数
有形文化財	494
無形文化財	4
有形民俗文化財	13
無形民俗文化財	106
史跡	109
名勝	4
天然記念物	94
計	824

## 第2節 天然記念物

本県の天然記念物の数は、国指定の特別天然記念物が4件、天然記念物が43件、県指定の天然記念物が20件、市町村指定の天然記念物が94件です。

天然記念物は、文化財の中で、特に環境の変化の影響を受けやすい分野です。水質の悪化は、水に命をゆだねる動植物の生存をおびやかします。むやみな森林の伐採は、周辺で生活する動植物に直接または間接に悪影響を及ぼします。また、乱開発や豪雨時の濁流等により、周辺の地質鉱物への影響も計り知れません。

天然記念物で近年懸念される問題に、アカウミガメの産卵場となっている砂浜海岸の浸食があります。産卵された卵は海水を被ると孵化が厳しくなります。浸食により波を被りそうになったところに産卵された卵塊は、アカウミガメ調査員によって安全な場所に移植されています。

特別天然記念物のカモシカは、九州山地に生息している希少な哺乳類です。平成23・24年度は特別調査を行い、宮崎県と熊本、大分の3県に設定された調査エリアに、約810頭生息しているという結果が出ています。

## 第3節 名勝

名勝とは、景観の優れた所であり、自然的なものとしては、風致景観の優秀なもの、名所的あるいは学術的価値の高いものがその対象となり、具体的には、高千穂峡谷や尾鈴山の瀑布群等があげられます。人工的なものとしては、公園や庭園、橋梁や築堤で芸術的あるいは学術的に価値の高いものがその対象となり、具体的には、国指定の妙国寺庭園（日向市）や県指定の勝目氏庭園（日南市）等があげられます。

## 第4節 史跡及び重要伝統的建造物群保存地区

史跡とは、貝塚、古墳、城跡、社寺跡、旧宅等で、歴史上又は学術上価値の高いものをさします。本県には特別史跡1件、国指定の史跡22件、県指定の史跡96件、市町村指定の史跡109件があります。これら指定された文化財の中では古墳が圧倒的に多く、各地で保存・整備が進められています。

また、史跡とは別に、町や村において、往時の姿を広域にわたって残している地区があります。この中で国選定の重要伝統的建造物群保存地区は、県では、日向市の美々津（港町）、日南市の鉄肥（城下町）、椎葉村の十根川（山村集落）の3地区です。



西都原古墳群